

おにクルに集合！
アートカフェをつくろう！
第5回 実施報告書

2025.3.14

茨木市

サントリーパブリシティサービス

目次

実施概要 P.3

スケジュール P.4

第5回までに作ったもの P.5

前日練習 P.6

広報・告知 P.7

イベントの様子 P.8

振り返り P.9

アンケート結果 P.10

集合写真 P.14

実施概要

1.日時

令和7年3月8日(土) 準備 12:00～
イベント 14:00～16:00
振り返り 16:20～

2.場所

おにクル1階オープンギャラリー

3.参加者

ごちゃの間ファミリー(つどい、つながる文化の会議参加者)
:17名(欠席者なし)

4.運営

主催:茨木市
企画・運営:SPS

5.第5回の目標

ごちゃの間ファミリーがつどう場(アートカフェ)について市民の方にも知ってもらう

スケジュール

予定	実績	項目	詳細	備考
12:00	12:00	準備	会場設営、機材準備 会場デコレーション	参加者、茨木市、 SPS
13:40	13:40	事前打合せ	参加者全員と打ち合わせ	
14:00	14:00	イントロダクション	会の趣旨説明	司会:SPS榛葉 説明:茨木市
14:10	14:06	WS説明&MAP 紹介	司会者が説明	司会:わかな&かる ふぁー
14:15	14:08	朗読	朗読:よりさん、まめさん 音楽:ツネおにいさん(クッキーハウス) 画面送り:愛さん	
14:30	適宜	呼び込み	適宜WSとMAPにお客さんを呼び込む	
15:05	15:00	WS説明&MAP 紹介		司会:わかな&かる ふぁー
15:10	15:02	朗読	朗読:よりさん、まめさん 音楽:ツネおにいさん(クッキーハウス) 画面送り:愛さん	
15:25	15:28	MAP完成	スライディングウォールにMAPを貼る	以下司会:SPS榛葉
15:40	15:30	まとめ	参加者を司会者から紹介など	
16:00	15:40	終了&片付け	写真撮影	
17:00	16:20	打ち上げ		
18:00	17:25	終了		

第5回までに作ったもの

【活動の名称】

ごちゃの間(ブランディング部命名)

- ・ 多様な人がまざりあう場。ごちゃまぜから。
- ・ 茶の間のような、あたたかい場所に。

【メンバー名称】

ごちゃの間ファミリー(ブランディング部命名)

【テーマカラー】

たまごいろ、薄紅色、群青色、黄緑(ブランディング部考案)

【大切にするキーワード】

「まざりあう」「自由なテンポで」「やってみよう」(全メンバーで選出)

【アイコン】

ちゃぶ台に帽子(デザイン部制作)

- ・ 帽子は絵本の中でごちゃの間ファミリーの目印



アイコン



イベントで着用したバッジ

【絵本(コンセプトブック)】

「かがやくところへ」(企画部・デザイン部制作)

中綴じ冊子 A4横型(フルカラー)

全20ページ(表紙含む)



絵本表紙



奥付

【イベント】

「みんなでつくろう！絵本と音楽、つどいの場」

- ・ オリジナル絵本による音楽付き朗読会「想像しながら聴いてみよう」
- ・ ワークショップ「絵本のラストページを自分で描いてみよう」
- ・ アートマップ「茨木の素敵な場所を描いてみよう」

前日練習

1.日時

令和7年3月7日(金) 19:00～21:00

2.場所

おにクル3階リハーサル室

3.参加者

- ごちゃの間ファミリー :ツネおにいさん(演奏)
まめ、より(朗読)
愛(ページ送り)
ましゅーさん(ワークショップ)
オザキさん(アートマップ)
- 文化振興課 :能勢、秋本
- SPS :青木

4.内容

音楽つき絵本朗読のリハーサル



広報・告知

1. note

- ・告知記事をアップ(2月28日)
- ・イベント内容とコンセプトの紹介



2. QRコード設置

- ・QRを読むとnoteの告知記事に誘導(ブランディング部考案)
- ・おにクル館内に設置(3月5日)
- ・おにクル内サイネージに表示(3月6日)



3. 茨木市ホームページ

- ・文化振興課のイベント情報に掲載(3月6日)

4. 文化振興課Instagram(3月6日)

5. 茨木市X (3月6日)

6. ごちゃの間ファミリーによる拡散



イベントの様子

☆オリジナル絵本による音楽付き朗読会「想像しながら聴いてみよう」
参加者数:130人(1回目59人、2回目71人)



☆ワークショップ「絵本のラストページを自分で描いてみよう」
参加者数:42人



☆アートマップ「茨木の素敵な場所を描いてみよう」
参加者数:27人

※イベント終了後、市役所南館8階の事務室の廊下に掲示



振り返り

1.日時

令和7年3月7日(金) 16:20～17:25

2.場所

おにクル7階会議室1

3.参加者

- ごちゃの間ファミリー :14名
- 文化振興課 :今西、能勢、秋本
- SPS :大角、富田、青木、榛葉、大泉、山下

4.スケジュール

	項目	詳細	備考
16:00～	移動	移動・会場準備	
16:20	開会		司会:SPS榛葉
16:21	乾杯		ご発声:文化振興課今西
16:25	歓談		
16:35	振り返り	良かったこと、大変だったこと	参加者全員にマイクをまわす
17:10	歓談		
17:20	まとめ		ご挨拶:文化振興課能勢
17:25	終了	写真撮影 アンケートのお願い 絵本お渡し 片付け	
18:00		完全撤収	

アンケート結果 (Q1-4)

項 目	n=13(人)				回答割合
	非常に思う	まあまあ思う	少し思う	特に変わらない	
1. 全5回を通して、コーディネーターとしての役割等について、理解が深まりましたか？	4	8	1	0	非常に思う まあまあ思う 少し思う 特に変わらない 77% 15% 0%

2. 上記の回答に対して、理由や具体的なエピソードがあれば教えてください。

- ・ 1回目の文化的コモンズのレクチャーが大変勉強になりました。
- ・ 理解は深まったものの、活動することに対する報酬というか、なにか副産物のようなものはあるのかなあ？と気になりました。
- ・ いろいろな方が、アートマップに書いてくださいましたことが楽しかったです。
- ・ 第1回に参加できなかったが、配っていただいた資料や絵本の物語を考える上でコーディネーターの役割を理解できた。
- ・ 第一回の講義において、つどい、つながる文化の会議の存在意義とコーディネーターのあるべき理想の姿を学んだから。また、イベントを通じて、実際に地域の人を巻き込んで活動することができたから。
- ・ 市民とアートを繋ぐ、という場面は少なかったのですが、私たち全体で、それぞれの役割を受け渡しあう部分は、コーディネート的な動きも必要だったのではないかと思います。
- ・ 役割やその必要性を知識としては得られたが、実質的な活動・手応えは乏しかったと感じています。
- ・ まずコーディネーターの存在について知らなかったのが今回のつどい、つながる文化の会議に参加し知ることができたのではないかと感じるから。
- ・ 私たち自身がアクションを起こすこと、これが第一歩だと感じました。

項 目	n=13(人)				回答割合
	非常に思う	まあまあ思う	少し思う	特に変わらない	
3. 全5回の参加前後で、アートやアートを通じた活動について、心境や行動の変化はありましたか？	10	2	1	0	非常に思う まあまあ思う 少し思う 特に変わらない 77% 15% 0%

4. 上記の回答に対して、理由や具体的なエピソードがあれば教えてください。

- ・ いろんな方と共同で一つのモノを作り上げるという活動は滅多にないので。
- ・ 回を増すにつれ責任を感じたがそれ以上の楽しさがありました。
- ・ 今までアートに思い入れはあったが、「アートを通じた活動」に参加する機会が少なかったもので、アートに関心がある方や行動を起こしたい方と話す機会を得られてよかった。自由な表現が許されるアートを通じて、深く会話することができたメンバーもいて貴重な機会になった。
- ・ アートのシェアには、人と人がつながる可能性があることを気づけた。
- ・ アートに詳しくない(と自分でいう人)と、身近な人がバランスよくいるなかで、それぞれが自分の考えを仕事で表現していったところは、ある意味「アート」にも通じるのではないかと思います。
- ・ 「少なからずアートに興味を持っている人」の、アートに対する一般的な考え・反応を垣間見れて勉強になりました。
- ・ 自分の領域以外の様々なアートやスキルをもつ人たちと絡むことにより、いままで自分だけではできなかったことが、できた。

アンケート結果（Q5-7）

5. 全5回の活動を通して、ご自身で「トライできた」と感じることは、いくつありましたか？（回答例：●回）

- ・ 2回 …3名
- ・ 3回 …1名
- ・ 4回 …2名
- ・ 5回 …1名
- ・ いくつもありましたよ
- ・ 知らない市民の方とのコミュニケーション
- ・ わかりません
- ・ 回数は分かりませんが、いろいろな意味で新しいチャレンジやトライにつながりました。

6. 上記の回答に対して、理由や具体的なエピソードがあれば教えてください。（回答例：3回目で積極的に意見交換ができた、絵本制作にあたり自身で調べた等）

- ・ Slackが使えるようになった。Canvaが使えるようになった。プリントパックで絵本も発注できることを知った。対面とSNSのミックスで製作がかなり進むことを学んだ。
- ・ 絵本の制作、当日の活動
- ・ たくさんの アート紹介や絵画を受付できました。
- ・ 3回目で絵本制作について皆さんの前でお話しさせていただいた。デザイン部のリーダーとして活動させていただいた。絵本を2週間程度で満足のいくものに仕上げられた。子どもとの関わり方が難しいと思っていたが、ワークショップで子どもが絵を描き広げていく様子に純粋に感動して声かけができた。
- ・ 日頃より積極的に意見を出したりコミュニケーションしたりできた
- ・ わかりません
- ・ Slack を使用して、違う部署の方とも積極的に交流し、意見を述べた。集まりに欠席し、不安だったが、チームの皆さんに励ましてもらったり、アイデア出しなどの際に意見を尊重してくださり、自分にできる事は何かを考え、告知の為のnote記事を書かせて欲しいとお願いした。
- ・ コンセプトやコンセプトカラー、ネーミングを考える場面で、メンバーそれぞれのスタートが異なるなかで、お互いが共通してわかる言語を選んだり、理解を確認しながら話し合っていくことを心掛けた（3回目、4回目）
- ・ Slack を初めて使った 一度使用を辞めたアプリ(Canva)に再チャレンジする機会になった 積極的に意見を出すという自己目標に励んだ 異世代の人の言葉を興味深く聞くことができた
- ・ 絵本・朗読と音楽のコラボ

7. 参加者同士や運営側との交流において、出来事や会話など印象に残ることがあれば、ご記入ください。

- ・ 3回目の終わり頃は実は失敗するだろうと思っていた。
- ・ どの方も自分の意見を出しつつ、周りの意見も決して否定せずに進めていたこと
- ・ 皆様との楽しい交流ができました。
- ・ 自分ができることをアピールするのが苦手だったが、運営の皆様の後押しいただいたこともあり「できることでチームの役に立つ」経験ができ自信になった。また、他のメンバーも絵を描くのが早い方、意見をどんどん言える方、本質的な議論を深められる方、明るい雰囲気になれる方など、議論して混ざり合う中でそれぞれの強みが引き出されたイベントだったと感じる。
- ・ 参加者同士の意見や方向性がまとまらないとき、運営の方が適切に話を引き出してくださった。
- ・ 能勢さん、秋本さん、河合さんから、おにクルや茨木市の地域活動についての貴重なお話を聞けたこと。私は自分の担当部や運営以外の方とほぼ話さなかったが、イベント当日は、話したことがなかった方ともお話しできたこと。参加者のなかに高校の同級生がいて、久々の再会が嬉しかったこと。
- ・ 本番が終わったときにいろんな人と話をすると、皆さんがお互いをリスペクトしているところは素晴らしいと感じたし、その中にいられることが嬉しいと感じました。また、この集まりで大切にしたいことの決め方も、とても勉強になりました。
- ・ 運営の方々、皆さまとても丁寧で感じよく接して下さり感謝しています。ありがとうございました。お綺麗な方ばかりで目にも楽しかったです。参加者では、人見知りだと自称していた方が話しかけて下さって嬉しく思いました。
- ・ たくさんの秀逸なアイデアをお持ちの方、熱い想いのあるお方、アートの才をお持ちの方・・・たくさんの方から刺激と気づきをいただきました。

アンケート結果（Q8-9）

8. イベントの企画運営や事業周知のために工夫したこと、他の参加者と上手く調整・実践したことがあれば、ご記入ください。

- 多少軋轢があってもちゃんと意見は出した方がよいと思った。
- チラシを知り合いにメールで送りましたら2名来て下さいました
- ワークショップと絵本の整合性が取れない、という話になった際、落とし所を探したこと。ワークショップスタッフとして、参加者の自尊心が高まるような声かけを意識したこと。
- 特にありません。他の参加者の皆様や茨木市の職員の皆様、SPSの皆様に頼りすぎてしまった、と反省しています。
- 本番の告知について、アイデアを出していくところは積極的にできたと思う一方で、それを実際に行っていくところは、SPSさん頼みになってしまったと反省しています。もっと、自分たちになにかできたのでは…と思っています。
- 参加者各人の無理のないペースで(過度の負担があった方もおられたのかも知れませんが)、無理のない規模感のコンテンツを展開できたのではないかと、私はと思っています。

9. イベント当日の来場者の声や反応等で、嬉しかったことなど印象に残っていることがあれば、ご記入ください。

- 子どもたちとお絵描きを楽しめた。
- 繋がりのある方が見てくださってよかったよ、と声かけしていただいた
- 皆様が喜んでくださいました。
- ワークショップ参加者の親子が、ツネお兄さんのユーフォニアム演奏を見て、「ママあれが吹けるんだよ(元吹奏楽部とのこと)」「そうなの?!」と会話していた。アートを見て親しい間柄の人の中で会話が生まれ、新鮮な一面が見えた瞬間に立ち会えて嬉しい気持ちになった。
- 子供連れの方が喜んでくださって、子どもが多い施設に対応した企画をできたかもしれないと思い嬉しかった。
- 思いのほか多くのお客様に立ち寄っていただいて良かったです。
- こんな活動が行われているとは知らなかった、素晴らしい活動だねというようなお褒めの言葉と感謝の言葉。
- 振り返りのときに言いそびれたのですが。会場でお客さんへ声掛けをしていたときに、ちょうど館内に入ってこられた家族が「茨木市、すげーな」と話す声が聞こえました。音楽が鳴っていたタイミングです。いい空間を作れているんだなあと思って、嬉しかったです。
- ワークショップで、絵を描く子ども達の手やほっぺたが可愛くてたまりませんでした。ほとんどが女の子で、お絵かきに慣れているのか、すんなりと描き進めていました。何を描けばいいかわからないかも、という老婆心は大人向けなのかなと思いました。
- 正直、「わかりやすいイベント」ではなかったと思っています(悪い意味ではなく)。なので直接このイベントだけで何かのリアクションがあったかという、私の知る限りでは、あまり感じられませんでした。でも芸術ってそんなもんだと思う。

アンケート結果（Q10-15）

項 目	n=13(人)				回答割合
	非常に思う	まあまあ思う	少し思う	特に変わらない	
10. 文化芸術活動に対して、関わりたい気持ちが高まりましたか？	10	2	0	1	非常に思う まあまあ思う 少し思う 特に変わらない 77% 15% 0% 8%
11. 新しい出会いやつながりを感じることはできましたか？	10	2	1	0	非常に思う まあまあ思う 少し思う 特に変わらない 77% 15% 8% 0%
12. 地域社会に貢献したい意識は高まりましたか？	10	2	0	1	非常に思う まあまあ思う 少し思う 特に変わらない 77% 15% 0% 8%
13. 新しいことへの好奇心や新しいアイデアを得ることはできましたか？	8	5	0	0	非常に思う まあまあ思う 少し思う 特に変わらない 62% 38% 0% 0%
14. 家族や友人など周りの人にこの活動を広めたいと思いますか？	7	5	0	1	非常に思う まあまあ思う 少し思う 特に変わらない 54% 38% 0% 8%

15. 本事業へのご意見・ご感想などあれば、ご自由にお書きください。

- 市役所の方はもっと意見を出した方がよかったのでは。
- 次年度もゆるゆると気軽に、熱く、繋がれるコミュニティであって欲しいと思います
- 茨木市、サントリーパブリシティ、ごちゃの間ファミリー、そして茨木市の方々にたいへんお世話になりました。ありがとうございます
- 運営の皆さま、参加者の皆さまがそれぞれ前向きな気持ちを持って参加されており、自分も「どうすればこの企画がよくなるか、自分に何ができるか」と妥協なく考えられる貴重な機会になりました。また、新たな出会いがあり茨木市に居場所が見つかった気分になりました。次年度以降もぜひ参加したいので、募集をお待ちしております。今回はイベントの参加者に子どもが多かったので、大人も参加しやすいイベントになると嬉しいです。(コーヒーを飲みながら、とか、実用的なものをつくるワークショップなど....?)
- すてきな事業をありがとうございました！とても貴重な時間を過ごすことができました。
- ぜひ継続して行ってほしい活動です。
- とにかく、楽しかったです！ありがとうございました。ぜひまた開催してください。
- 「アート」の切り口で行われたところに魅力を感じました。実は、身近なものだけに、大きな一回だけで終わらせず、小さくても継続していけたらいいなと思っています。「アート」「文化」と改めて聞くと敷居の高いものに感じますが、「身近な存在」になることが、茨木の文化が育つことなんだろうなと思っています。多様なプログラムのコーディネートの部分で携われたらウレシイです。
- 芸術文化活動の地域活性を本当に目指すつもりなら、募集メンバーには工夫を要と思います。学生を含む若い人・子育て中や諸事情で行動範囲が自由でない人、経済的に豊かではない人…等の意見が拾えるといいと思います。何故なら、「恵まれていて元気でヤル気のある人」は、作るのも観るのも発表するのも、どこでも出来るので“より良い”所へ行ってしまいます。茨木市でなくてもいいのですから。市内の学生の作品や、コソコソと趣味で作り溜めたものを発表できるような場、年齢関係なくルーキーの為の初発表の場、その際のプロデュースなども受けられるようなシステムがあればいいと思います。そういった話し合いを深く出来るような場【ごちゃの間】？があるといいかもしれません。まさしく、アートカフェ【ごちゃの間】を定期開催(対面・ネット上どちらも使って)してひたすら談義する→これから必要なモノ・者の洗い出しをするのはどうでしょうか。
- また機会があれば、参加したいです。

集合写真

